

桜の鎌倉、家光ゆかりの女性たちを想う

春爛漫の桜の季節に、徳川幕府第三代将軍徳川家光ゆかりの女性たちに関わる史跡を巡ります。縁切り寺として名高い東慶寺は、豊臣秀頼の娘天秀尼の入寺により、家光の姉千姫(秀頼正室、天秀尼の養母)の支援がありました。建長寺の仏殿は家光の母崇源院の元霊廟です。塔頭の正統院は家光の乳母春日局が再興しました。昼食は建長寺半僧坊下の桜の下で楽しんでいただきます。薬王寺では家光と弟の忠長、生母のお江、乳母の春日局たちの確執の歴史を垣間見ます。鎌倉唯一の尼寺英勝寺は、徳川家康側室で家光の將軍継承を支援した英勝院が開いたお寺です。

コース：北鎌倉駅～東慶寺～建長寺(三門、仏殿、法堂、方丈、正統院、雲外庵跡、回春院など)～亀谷坂切通～薬王寺～(岩船地藏堂)～英勝寺～JR 鎌倉駅西口
(解散 14 時 30 分頃、徒歩距離 約 5 Km 高低差ややあり)

東慶寺

【山号寺号】^{しょうこうざんとうけいそうじぜんじ}松岡山東慶総持禅寺【宗派】臨済宗円覚寺派

【創建】弘安八年(1285)

【開山】^{かくざん しどう に}覚山志道尼【開基】北条貞時【本尊】釈迦如来

駆込み寺、縁切り寺として、知られる東慶寺は弘安八年(1285)、^{かくざん しどう に}覚山志道尼(第八代執権北条時宗夫人)により、女性の救済を願って創建された。第五世の^{とうきゅう に}用堂尼が後醍醐天皇の皇女であることから「松ヶ岡御所」と呼ばれ、高い寺格を誇った。第二十世天秀尼は豊臣秀頼の側室の娘であったが、徳川家康の孫・千姫(徳川家光の姉、豊臣秀頼の正室)の養女となり東慶寺に入山したため、徳川家から厚い庇護を受けた。



千姫は、徳川幕府第二代将軍徳川秀忠の長女。母は崇源院。家光の姉。7歳で豊臣秀頼にとつぎ大坂城にはいる。大坂落城の際、坂崎出羽守にたすけられ脱出。翌年本多忠刻と再婚する。忠刻の死後、出家し江戸城北の丸にすんだ。寛文六年(1666)死去。70歳。法号は天樹院。

豊臣秀頼と側室の間に生まれた娘・天秀尼の助命嘆願を行い養女とした。天秀尼は東慶寺に入寺、後に住職となった。

駿河大納言忠長(徳川家光の弟)が、高崎で自害した後、屋敷が東慶寺に下附され、客殿、方丈、門等が移築され、仏殿は再建された。仏殿の棟札の表に、千姫の御建立、天秀尼の御寄進と記され、裏には春日局の御執持と記されている。縁切寺法は、明治四年(1871)に廃止されるまで、約六百年にわたり受け継がれ多くの女性が救われた。

明治三十六年(1903)には尼寺から臨済宗円覚寺派の寺になった。その後、入寺した釈宗演は鈴木大拙と共に禅を世界に広めたことで知られる。

* 墓地には数多くの有名人が眠っている。西田幾多郎、鈴木大拙、岩波茂雄、高見順他。

建長寺

【創建】 建長五年(1253) 【山号寺号】 巨福山建長興国禅寺 【宗派】 臨済宗建長寺派
【開山】 蘭溪道隆(大覚禅師) 【開基】 北条時頼 【本尊】 地藏菩薩

鎌倉五山第一位の古刹。五代執権北条時頼が禅による国家の興隆・天下泰平を願い、宋僧の蘭溪道隆を開山に迎えて創建された我が国最初の禅宗専門道場。蘭溪道隆は宋風の厳格な純粹禅によって多くの修行僧を指導した。

総門、三門、仏殿、法堂、方丈などがほぼ一直線に並ぶ伽藍配置は、宋風の禅林様式を踏襲している。

桜並木の先にある三門は「三解脱門」(空門、無相門、無作門)のことで、楼上に釈迦如来像や銅造五百羅漢像などが祀られる禅宗様の二重門である。現在の三門は安永四年(1775)再建された。



本尊の「地藏菩薩坐像」が祀られる仏殿は、寛永五年(1628)、芝増上寺に建立された徳川幕府二代将軍秀忠の夫人崇源院(お江の方)の御霊屋を、正保四年(1647)に譲り受けた。天井や壁などに華麗な装飾が残されている。国重要文化財。

お江の方(崇源院)は、父が浅井長政、母が織田信長の妹お市の方で、淀君の妹。豊臣秀吉の養女として文禄四年(1595)、6歳年下の徳川秀忠に再々嫁し、千姫をはじめ家光、忠長、和子(東福門院、後水尾天皇の後)など三男五女をもうけた。秀忠とお江の方は嫡男の家光より弟の忠長を偏愛した為、この兄弟に不幸を招くことになる。寛永三年(1626)江戸城西の丸で死去(享年54歳)。芝増上寺に葬られた。

法堂は文化十一年(1814)に上棟された関東最大の法堂で、千手観音像が祀られ、天井には、日本画家・小泉淳作が平成十五年に制作した雲龍図が描かれている。

唐門(勅使門)は仏殿と同じく増上寺から移築された装飾彫刻が見事な四脚門である。

方丈は、昭和15年京都般舟三昧院より総門とともに移された。

〔正統院〕 建長寺十四世高峰頭日(佛国国師)の塔頭。この場所は、元は建長寺五世で円覚寺開山の無学祖元の塔頭正統庵があった。弟子の夢窓国師が、正統庵を円覚寺に移し、その跡に浄智寺にあった正統院を当地に移した。本堂に国重要文化財の高峰頭日像や三代将軍徳川家光の乳母春日局の位牌が祀られている。位牌には「中興開基麟祥院仁淵了儀尼大姉」とあり、春日局が中興したことが示されている。



春日局は徳川家光の乳母。名は「福」。父は明智光秀の重臣斉藤利三、母は稲葉一徹の養女という。父利三の死後、母方稲葉家で養育され、更に縁戚の三条西家で京風の教養を身に付けた。稲葉正成の後妻となり、三子を儲けたが、家光の乳母に任命され、正成と離婚した。家光の将軍後継に尽力し、家光の将軍就任後は大奥内外に権勢をふるった。朝廷と不和になった時、幕府の交渉役として上洛し、関係改善に貢献した。朝廷より従三位に任じられ、「春日局」の号を賜わる。寛永二十年(1643)没。享年65歳。墓所は湯島の天澤山麟祥院。

〔回春院〕 建長寺二十一世玉山徳璇の塔頭。大覚池があり亀ヶ谷坂の亀の伝説が伝わる。このあたり地獄谷と呼ばれ、建長寺開山前に心平寺地藏堂があった所といわれる。

〔雲外庵跡〕 建長寺三十世枢翁妙環(仏壽禅師)の塔頭跡。半僧坊下になり春は桜が見事。その一隅に、平成27年6月養老孟司により虫を供養する「虫塚」が造られた。

薬王寺

【創建】 永仁元年(1293) 【山号寺号】 大乘山薬王寺
【宗派】 日蓮宗 【開山】 日像上人(中興開山・日達上人)
【本尊】 久遠本師釈迦牟尼仏

ばいれいさんやこうじ
梅嶺山夜光寺という真言宗の寺を、日朗上人の高弟日像上人が開山となり日蓮宗に改宗したと伝わる。中興開山の日達上人は、衰微していた当寺を寛永年間(1624～44)に再興し大乘山薬王寺と改称。

門前の桜並木の坂道を登ると、境内右手に徳川忠長の供養塔がある。忠長夫人の松孝院(織田信長の次男信雄の孫)は、多額の金子と広大な土地を当寺に寄進し、忠長の霊を弔う供養塔を建立した。

本堂の正面中央の大柄な日蓮上人坐像(像高 93 cm)は、口を開け歯と舌がのぞき、裸形像に実物の法衣を纏った珍しいお像で、毎年2回衣替えが行われる。元は天保年間、11代将軍徳川家斉が創建した感応寺にあった像。



徳川忠長は、二代将軍徳川秀忠と正室お江の方の三男で、徳川家光の弟である。幼少より聡明で、将軍夫妻からの寵愛が兄家光に勝っていたため、幕府重臣たちから忠長が世嗣と目されるようになった。これに危機感を抱いた家光の乳母春日局が、大御所徳川家康に直訴して三代将軍家光が実現したといわれる。将軍家光から疎まれた忠長は乱行を理由に駿河五十万石を改易、甲斐に蟄居させられ、秀忠の死後に高崎で自刃した(享年 28 歳)。

本堂裏の高台に2基の大きな宝篋印塔が並んでいる。伊予松山藩主蒲生忠知がもうただちかの妻と息女の墓塔で左が正室の松壽院、右が息女の梅嶺院でそれぞれ 89 歳と 12 歳で没している。蒲生忠知は、戦国末期の名将といわれた会津九十二万石の藩主蒲生氏郷の孫で、織田信長を曾祖父にもち、徳川家康は母方の祖父(家光とは従兄弟)という由緒ある家柄であった。蒲生家は氏郷の孫・忠郷に嗣子がなく弟の忠知が相続したが松山二十四万石に減封。しかし忠知の嫡男も早世したため、蒲生家は断絶した。

(岩船地藏堂)

源頼朝の息女大姫の守本尊岩舟地藏尊が祀られている。

元禄3年(1691年)造立の木造の地藏立像を御前立とし奥に船形光背の石造の地藏が安置されている。大姫は人質として連れてこられていた木曾義仲の嫡男・義高と6歳の時婚約するが、父頼朝により義高が殺された後は病気がちとなり建久8年(1197年)20歳で亡くなった。

英勝寺

【創建】 寛永十三年(1636) 【山号寺号】 東光山英勝寺
【宗派】 浄土宗 【開山】 玉峯清因
【開基】 英勝院尼 【本尊】 阿弥陀如来

鎌倉唯一の尼寺。開基の英勝院は太田道灌から四代目の孫太田康資やすすけの娘で、徳川家康の側室となり、お勝の方(局)と呼ばれた。家康は、お勝を11男の鶴千代(水戸初代藩主徳川頼房)の養母とした。家康没後、出家したお勝は、英勝院を名乗り太田道灌ゆかりの地を、三代将軍徳川家光から拝領し、寛永十三年(1636)に徳川頼房の姫君(玉峯



清因)を開山に迎え、英勝寺を創建した。以後、代々水戸徳川家の姫君が住職を勤めたので、「水戸御殿」と称された。

家光は本尊の阿弥陀三尊像や3千両を寄進した。また寺領として池子村420石が与えられた。仏殿、祠堂、唐門、鐘楼、山門は江戸時代初期の姿を残す名建築で、国指定重要文化財。

英勝院(お梶、お勝)は、晩年を駿府城で過ごす家康に仕え、お側を取り仕切っていた。お勝は春日局が家康に会い、家光を秀忠の後継の三代将軍に就くことを訴える仲介を行い、本人も長幼の序の重視する考えから、春日局に味方したといわれる。第三代将軍の家光と春日局はその後、英勝院には丁重に接している。英勝院は水戸徳川家においても長幼の序を重んじ、頼房の長男で不遇な出生の頼重(水戸家は三男の光圀が継いだ)を将軍家光に願い、高松十二万石の藩主とした。寛永十九年(1642)享年65歳で没す。

本日ご案内のコース



本日は鎌倉ガイド協会の史跡めぐりにご参加いただきありがとうございました。
またのご参加をお待ちしております。